

会津放射能情報センターの山口朗と申します。

福島県で比較的放射線量の低いといわれる会津若松市に住んでいます。

福島第一原子力発電所からの距離は会津若松で 100 km 程度有ります。

おかしな話ですが・・・このような場所に来て、浜通りや中通りのお話を伺うと、いつも痛み比べをして引け目を感じてしまいます。一方で、会津で放射能？会津は安全でしょ？という言葉にも反発を感じている自分がいます。

会津に住むものとして現状を報告させていただきます。

昨年 8 月にまとめられた復興庁の「原発事故子ども・被災者支援法」の基本方針案では、2011 年の原子力損害賠償紛争審査会による東電の賠償問題に続き再び会津地方が、そっくり外される形になりました。

現在、会津若松市の大部分は毎時の空間線量率が 0.1 マイクロシーベルト未満です。

私としては何とか大丈夫であろうと思って住んでいるのですが、会津地方にも局所的に安全とは思えない場所が有ります。また喜多方市の塩川町、会津坂下町の一部のように、年間 1 ミリシーベルトを超える場所が点在する地域があります。会津地方の面積は千葉 1 県より広いのです。「会津」とひとくくりにするのは誤解を招く表現の仕方です。事故後に福島産は危険、福島には住めないなど、広大な福島県をひとくくりにすることで風評に苦しんだ方たちもたくさんいます。今回のような広範囲な災害の場合は詳細な地名の表現がまとめられると思っています。

国や自治体が正しい情報を発信しない中で、低線量被曝による健康不安はぬぐい去れていません。屋外活動を制限されることもあれば、日々の食べ物にも気をつけなければならない生活はずっと続いています。個別の支援内容によって対象範囲を決めるべきで、具体的な支援内容も決まらないのにまず対象範囲を一律に決めるというのは、政府が意図的に支援対象を小規模にしようとしているからではないでしょうか。

放射能の拡散には、自治体が勝手に引いた境界線は関係ありません。国が決めた 1Kg あたり食品 100Bq と牛乳 50Bq という放射性セシウム基準値が、数十ベクレル程度セシウムが含まれる食品を ND（不検出）とし、全国に流通させてしまいました。

我が家では 3 年以上水道水を飲んでいませんし、米も検査して ND ではなく 0 ベクレルのものを食べています。自分の家の野菜や果物だって測っているし、産地に気を遣いながらの生活を続けています。それでも、子ども達の尿からは微量ではありますがセシウムが検出されています。

私たちが実施した、会津若松市内に通っていた小中学生 10 名の体操着とリュックサックの放射能検査からも 5 ベクレルから 40 ベクレル程度のセシウムが検出されました。何度も洗濯してこの値です。観光地として風評を恐れ、市内の校庭を除染しなかった結果がここに出ています。日々何時間もこのようなものを身につけている結果がどのようになるのか不安があります。

福島県民健康調査による甲状腺検査では、会津地方で 8 名が小児甲状腺癌と診断されました。二次検査が残り 19.2% 確定していない会津で結果がでれば、浜通りや中通りと変わらない発生率となるといわれています。マクロな見方では罹患率何%とか、何人に一人とか表現されています。でも、

その低いと言われる確率が身の回りの子どもだったら、我が子だったらどうでしょう。親はこの子が健康であるようにと願うだけなので、確率をいわれても健康が担保されない限り安心は出来ないのです。

私は今年6月の甲状腺エコー検査で、甲状腺に9.9mmの嚢胞と11mmの結節が見つかりました。まさかのC判定です。郡山市の病院で即二次検診となりました。3ヶ月かけて5回の穿刺吸引細胞診を行いました。細胞診はピストルのような形をした注射器のようなものを、甲状腺に刺し細胞を吸い出します。一箇所につき何十回もピストンで吸引します。のどに注射器をさされるのは、結構怖いし痛みもあります。

検査の結果は幸いにもガンではありませんでしたが結節性甲状腺腫ということで、半年おきの経過観察となりました。今回の経験から、子ども達があのような検査に耐えていること。結果を待つ親の思い。そしてガンの宣告をされ手術を受けているのかと思うと、なんとも切ない思いになります。そして、大人も検査を受けなければ、手遅れの人が出てくるかもしれないと思いました。成人の甲状腺検査を行っていく必要があります。

会津には、大熊町が役場ごと避難し生活をしています。富岡町や檜葉町などから避難してきている方も多くいます。強制的に避難させられている方々から比べると、私たちの被害などたいしたものでは無いかもしれません。その方達から様々なお話を効く度、置かれた環境に思いをはせる度、こみ上げる怒りと憤りにも向き合っています。おなじ県民としてともに闘って行かねばと気持ちを奮い立たせています。申し訳ないけれど被害が少なかった私たちにこそ出来る活動があると思っています。

そして会津には避難指定区域以外の町から、自主的に線量の低い場所へ県内避難をされている県内自主避難の方もいらっしゃいます。県内自主避難者へは何の支援も無い状態が続きました。ようやく出した県の自主避難者への住宅借上げ費用支援は、4人以下の世帯で家賃が6万円以下、家賃が月額6万円以内なら全額支給されるが超えると全額自己負担ただし、住み替えは認めないという制限の多いものでした。最後に自主避難の方から寄せられたメールを本人の了解のもとに紹介させていただきます。

県内自主避難者のからのメール

現在3年がたち、県内自主避難連絡会のメンバー34世帯うち借りに住めているのは12世帯のみ。

残りは実家に間借り、社宅に避難、実費でアパート代を払っている人達です

借りに住めて居ない人達には何の支援も無い状況です

避難者は自宅に戻る人達が増えています

安心して帰るのではなく、避難生活に疲れて、経済的に立ち行かなくなって、残る家族が精神的に追い詰められて帰って行きます。

そして自主避難者は戻る地域でも受け入れてもらえるかも分からない

あの人は逃げたお金がある人は避難出来ていいね。などの心ない言葉をかけられたりもする

残る人々は自分達の生活を否定されたような気持ちになって避難した人々を気持ち良く受け入れる事が難しくなっているのではないかと

県内避難者の多くは家族離れ離れで暮らさないように、と会津を避難地を選んでいる
私もその一人だけど、借り上げにも入れず、避難者としても認められず、汚染されている土地に
避難してしまった事を後悔していたでも夫を残して遠くに避難してしまったら、そこまでの必要
があったのか？

残して来た家族の事を思って後悔していたと思うそして避難しない事を選んでもやっぱり後悔し
ていた。

家族揃っての移住をしても年老いた両親や友人達を思うとやり切れない気持ちになる

何が正しいのか分からずに私達はどんな選択をしてもその選択に自信が持てない

せめて避難する事に経済的な支援をしてほしい、残る人々にも同じ賠償をしてほしい、お金で分
断されたくない

家族や親戚と避難する、しないでもめたくない。放射能危険、安全でもめたくない。

この家族は二重生活にピリオドを打ち、ご主人が転職、中通りの自宅を処分して、
県外に移住して行きました。

以上、つたない話でしたが会津における現状が少しでもお分かりいただければ幸いです。

お話してまいりましたように、会津に住む人たちにもたくさんの苦悩があります。3年半に渡り、
神経をすり減らして来て疲弊している人も多いのです。

会津地方にも正当な支援を受ける権利を求めます。

本日は発言の機会を与えて頂いてありがとうございました。